

# 駅からさんぽ

地上150mの眺望と市川ゆかりの文学散歩

## 手児奈伝説の里・真間を歩く



まずアイ・リンクタウン展望デッキから市川市を360度見渡そう。目指すものを探すのもおもしろい。地上に降り大門通りへ。壁に展示された書家による万葉和歌を鑑賞しながら、春の桜がきれいな弘法寺へ。多くの歌人に詠まれた悲劇の万葉美女・手児奈を祀る霊神堂に立ち寄った後は、亀井院で「真間の井」を見学し、「文学の道」へ。市川ゆかりの文人とその作品の案内板を見ていると多くの文人に愛された市川がみえてくる。

### 伝説の美女を祀る

#### ③ 手児奈霊神堂

てこなれいしんどう

真間の地を守護するといわれる女神「手児奈」を祀る、女性から厚く信仰される霊堂。境内へは隣接する真間稲荷神社からも入れる。子授けや安産、良縁、お宮参りなどさまざまな祈願も行っている。

☎047-371-2953  
 あり 市川市真間4-5-21  
 MAP P.8 A-2

▶昔の入り江の面影を残す池がある  
 ▼境内には松の木や桜なども植えられている。枝垂れ桜が満開



1 真間万葉顕彰碑「真間娘子(手児奈)の墓」  
 ◇万葉集に歌われた「真間の井」「真間娘子(手児奈)の墓」「継橋」の所在を後世に継承するため建てられた碑の一つ 2 菩薩像が置かれている御手水で手を清めよう

### 手児奈の伝説

遙か万葉の昔、身なりはそまつだったが満月のように美しい顔といわれた手児奈。その噂は遠く都にまで伝わり、里の若者や国府の役人など多くの男性から愛された手児奈は、「誰かのお嫁さんになれば、ほかの人を不幸にしてみよう」と悩んだあげく、真っ赤な夕日を見ながら海に身投げをしてしまった。現在の霊堂は、1501年9月9日、第7世の日与上人が手児奈の霊を感じて、奥津城跡(手児奈の墓)周辺にお堂を建てたものと伝わる。



### 東京が一望できる

#### ① アイ・リンクタウン 展望施設

天候がよければ富士山も筑波山も見える。施設内には市内の観光や物産を紹介・販売する情報コーナーがあり、カフェスペース(AM11~PM6)では飲み物やお菓子をいただける。

→詳細はP.10へ



▲カフェスペース

### 万葉の道

真間山弘法寺への参道・大門通りをいう。通り沿いの民家の壁に、市川の書家による万葉の歌が展示されている。和歌と書道どちらも楽しめる。



▲大門通り入り口  
 ◀展示された万葉の和歌のパネル。現代語表記も添えられている



その2  
**市川駅**  
 約3.3km/  
 約60分

スタート  
**JR市川駅**

#### ① アイ・リンクタウン

▼1.3km・20分  
 ▼大門通り(万葉の道)  
 ▼入江橋  
 ▼真間の継橋

#### ② 真間山弘法寺

▼300m・4分  
 ▼徒歩すぐ 5分  
 ▼真間稲荷神社

#### ③ 手児奈霊神堂

▼200m・4分  
 ▼手児奈橋

#### ④ 亀井院

▼600m・10分

#### ⑤ 文学の道800m(桜土手公園)

ゴール  
 京成電鉄市川真間駅

### 日蓮宗の本山

#### ② 真間山弘法寺

まますんぐぼし

→詳細はP.15へ



▲祖師堂

### 伝説の古井戸が残る

#### ④ 亀井院

弘法寺貫主の隠居寺として建立され、「瓶井坊(かめいぼう)」と呼ばれていた。高橋虫麻呂が万葉集の中でここで手児奈が水を汲んでいたと詠った古井戸が残る寺院。かつて北原白秋が住んでいたことでも知られる。

☎047-372-1561 あり  
 市川市真間4-4-9 MAP P.8 A-2



真間の井  
 ▶伝説の古井戸。中は瓶型になっている。

☎047-372-1561

### 市川にゆかりのある近代文学の作者と作品を知る

#### ⑤ 文学の道(真間川沿い~桜土手公園)

市川の文学について知識を深められる散策コース。文学者や歌人の経歴や市川と近代文学との関わりが書かれた説明板が設置してある。

→詳細はP.23へ



### ココもチェック!

真間の継橋 →詳細はP.16へ

下総国分寺 →詳細はP.14へ

市川市木内ギャラリー →詳細はP.23へ

市川市芳澤ガーデンギャラリー →詳細はP.23へ

市川市郭沫若記念館 →詳細はP.23へ

いしかりしかりまつじやくきんなん  
 市川市郭沫若記念館 →詳細はP.23へ